

令和3年10月4日

老年看護学Ⅲ③

担当：平田 昌美

リハビリテーションを受ける高齢者の看護

学習目標

1. 高齢者のリハビリテーションの役割について理解できる。
2. 経過別リハビリテーションの意義と患者および家族の支援について考えることができる。

<事例>

F氏（82歳）女性、3年前に夫を亡くし、しばらく元気がなかった。F氏は“泣いていても仕方がない。すぐに、おじいさんが迎えにくるはずもないし！”“と思い、畑で野菜を作り、柴犬の”クロ“と住んでいた。子どもは二人おり、息子夫婦は車で20分程度の所に住んでいる。娘夫婦は遠方で年に1～2回程度会うぐらいであった。畑で仕事をしている時に、段差に躓き転倒し右大腿骨頸部骨折にて入院となった。手術後、経過はよく、リハビリテーションも順調に進んでいた。訓練室では杖を使って歩行ができるようになった。看護師に「早く家に帰って、畑の手入れとクロの世話をしないとね～。クロが待っとるよね。」笑顔で話していた。

入院1ヶ月が過ぎ、退院後について家族と主治医の面談があり、息子夫婦が面会にきた。息子は主治医に「退院したら、リハビリのため施設に入ってもらい、その後は自分たちと同居してもらおう」と話した。女性はうつむいて何も言葉を発さなかった。息子は「母さん！うちはマンションだからクロは誰かに引き取ってもらおうよ！」と話した。

それから女性は、リハビリの時間になっても「足が痛い。」「今日は体がきつい・・・。」と言って、ベッド上で過ごす日が続いた。食欲もなく、笑顔も少なくなった。トイレも杖をついて一人で行けるぐらいまで回復していたが、トイレに着く前に間に合わず、失禁することもあり、「もう、これじゃ、だめやね。」と言い、以前のようなリハビリに対する意欲が見られなかった。

<課題>

- ① リハビリテーションを受ける高齢者の看護（p 334～338）を読み、わからない言葉は調べ学習をする。
- ② 事例を読み、高齢者にリハビリテーションを行うときの成人との違いや注意すべき点を考える。